



# な が れ

## 目標とタイミング

副校長 深尾 剛

先日の学校公開には、お忙しい中多くの方に御来校いただきありがとうございました。授業や休み時間の様子を熱心に見ていただいている姿を拝見し、子供たちが温かく見守られていることが伝わってきました。

さて、「啐啄同時（そったくどうじ）」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。「啐（そつ）」とは、卵の中の雛鳥が殻を破ってまさに生まれ出ようとする時、卵の殻を内側から雛がつつくことで、「啄（たく）」は、ちょうどその時、親鳥が外から殻をつつくことをいいます。雛鳥が内側からつづく「啐」と親鳥が外側からつづく「啄」とによって殻が破れて中から雛鳥が出てくるわけです。両方が一致して雛が生まれる機を得て、両者相応じる得難い好機（タイミング）のことを「啐啄同時」といいます。

教育にこの言葉を当てはめると、「殻」は目標やねらいではないかと思えます。この目標やねらいが価値あるものとなるためには、まず子供自身が目標やねらいに向けて意欲的、主体的であるということが大切です。教師や親に依存してばかりいる子供では「啐」は起こりません。その上で、教師や親は子供の様子をしっかりと見取り、今、指導・支援するべきか、それとも見守るべきか。指導・支援するとしたらどうしたらよいか。「啄」のタイミングと方法を見極めなくてはなりません。

今年度本校は、子供たちが目標をもって学習を進めていくことに力を入れています。1時間の授業でいえば、課題やねらいにあたると思います。この課題やねらいをしっかりとつかむことで、子供たちは進むべき方向「殻」を理解し、見通しをもつことができます。教師は、課題やねらいを子供が主体的につかむことができるよう、発達段階に応じて教材や教具、発問等の授業づくりを工夫しています。教える側がただ単に知識を教え込めばよいというものではなく、学ぶものの状況、子供たちの理解の段階に合わせた内容の提供とタイミングが大切です。そして子供たちが目標に到達し「殻」を打ち破ったとき、その近くで、努力を認め、共に喜ぶことができるようでありたいと思います。御家庭でも子供たちが自分の目標をもってから取り組みができるように、そして手をさしのべる（指導する）方法とタイミングを計っていただけるようお願いいたします。

## 豊かさは子供の中に

図画工作専科 山内 泰子

日頃から図工の学習に、御理解御協力いただきありがとうございます。

図工室には毎日、1年生から6年生の子供たちが図工の授業にやってきます。子供の発達段階や興味の度合いに個人差はありますが、「今度の図工何やるの?」「明日の図工、よろしくお願いします。」などと、図工を楽しみして声をかけてくれる子がいると嬉しくなります。

「豊かさは子供の中にある」と言われます。古来より人間は文字を書く前に絵を描き、形を作ってきました。先人の残した洞窟画や土偶などを見ると、その「ものを作り出したい」というパワーに共感し胸を打たれます。子供たちの内面には「表したい。作りたい。」というパワーがもともと備わっているはずですが。それなのに、年齢を重ねると「うまく描けない。」「めんどくさい。」などというマイナス思考に押されてのびのびと表現できなくなったり、人が決めた固定概念の中で作品の良し悪しを決めてしまい描くこと作ること自体を楽しめなくなったりしてしまいがちです。それも発達段階といえは発達段階なのですが…。

小学校の図工で何より大切なのは「作る楽しさや喜びを感じる」ことだと思います。とはいえ、学校の授業ですから、評価基準もあり、身に付けてほしい技能や、様々な制限もあり、好きなものを何でも好きなように作ってよいということではありません。ですが、子供の中にある豊かな感性を引き出すべく、小学校のうちにできるだけ多くの素材や用具に触れ、楽しんで取り組むことができるようにと常々思いながら、授業計画や題材の準備、そして授業にあたっています。

不定期ですが「図工室から」で、図工の時間の活動の様子をお知らせしています。子供たちの豊かさを少しでもおうちの方々にも伝えられたらと思っています。

10月の行事予定

1	土	都民の日	18	火	給食試食会 放課後学習教室 日光移動教室②6年
2	日		19	水	B時程4校時授業 13:10 下校 日光移動教室③6年 美術鑑賞教室事前授業4年
3	月	全校朝会 安全指導 委員会活動 歯磨き週間始	20	木	神田川ファンクラブ4年
4	火	避難訓練 漢字検定 放課後学習教室	21	金	
5	水	B時程4校時授業 13:10 下校	22	土	
6	木	茶道体験5年 理数授業特別プログラム5年	23	日	
7	金	なわとび時間終 清掃周時学習4年 放課後ゼミ	24	月	全校朝会 クラブ活動 道徳週間始 地域移動学校運営協議会 15:30～
8	土		25	火	地域清掃活動(3・4校時) 放課後学習教室
9	日		26	水	B時程5校時授業1～4年 14:00 下校 学習発表会会場設営5・6年 5・6年 14:35 下校
10	月	体育の日	27	木	豆腐作り体験3年
11	火	放課後学習教室	28	金	道徳週間終
12	水	B時程4校時授業 13:10 下校 2年研究授業5校時 下校 13:50 4年研究授業6校時 下校 14:40	29	土	
13	木	スポーツギネス新記録録会(校内)	30	日	
14	金	移動教室前録③6年	31	月	全校朝会 読書週間始 美術鑑賞教室4年 クラブ活動
15	土	PTA自転車教室(校庭) 午前			
16	日				
17	月	全校朝会 クラブ活動 日光移動教室①6年			

学年の窓 一6年一

6年担任 坂井 直樹

わんぱくだった子供たちも、ついに最高学年となり、心も体も一回り以上大きくなりました。何事も前向きに学習に取り組む姿勢がうれしい限りです。高学年にもなれば、困難な課題になると、「え～！めんどくさ～い」という声が聞こえることもあります。そういった声を上げず、できるまで頑張ろうとする姿勢を示せるところが、6年生のセールスポイントと考えております。

10月17日(月)より、2泊3日の日光移動教室に出かけます。卒業に向けて大切な行事が続くなかで、2学期の始業式以降、時間をかけて「卒業に向けての学級目標」を改めて話し合ってきました。

- みんなのことを考え、まとまって行動するクラス
- お互いに友達を大切に、信頼し合えるクラス

最高学年とはいえ、友達のことをあまり考えないで発言してしまったり、うきうきすると集団行動が遅れがちになってしまったりすることなどは自覚しているようで、学級目標に必要と感じていることが分かりました。子供たちには、お互いに学級の問題点について前向きに考え、クラスを「ああしたい、こうしたい。」という思いを、互いに理解し合い、そのことをいつも心に留めて学校生活を送り、卒業に向かっていってほしいと思います。

「まなびの教室」ってどんなところ？

特別支援教室専門員 鍵野 純子

今年の5月から「まなびの教室」が始まりました。

よく「まなびの教室は、何をしているの？」と聞かれることがあります。「まなびの教室」は、それぞれの子供に合ったやり方で学習をするところで、東京都の施策として新宿区では今年度すべての公立小学校に設置されました。

私たち人間は、おとなしい人もいれば、賑やかな人もいて、積極的な人もいれば、消極的な人もいます。というように、十人十色でそれぞれ違います。学校でも、国語が得意だけど、算数は苦手、読むことはできるけど、書くことは苦手…というように、得意なこと、苦手なことは、子供によってそれぞれです。そう、違うということは当たり前のことなのです。

当然、学習の内容を理解する場面でも、聞いて理解するのがはやい子もいれば、目で見て理解するのがはやい子もいるというように様々です。今、教育は、その子に合った学び方を大切にしています。

戸三小では、「まなびの教室」を楽しみにしている子供たちがいます。週に1回ですが、先生がその子に合った学び方を考えながら、学びを進めています。子供たちが、苦手意識をもたずに、得意なことはどんどん伸ばし、学校生活の大切な時間を過ごしてくれるように、私たちはお手伝いをしています。

新教職員紹介 一 学習指導支援員 鈴木 実千代(すずき みちよ) 一

10月から学習指導支援員として、勤務させていただくことになりました。主に低学年の国語の時間に入ります。授業中、何をすればいいのか分からないまま教室の椅子にじっと座っているのは、とてもつらいことだと思います。そんな時の学習支援はもちろん、自分の気持ちをどう伝えたらよいか、分からないときにはどう聞けばよいか、など、学校生活に役立つ指導もしていけたらよいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 豊かさは子供の中に

図画工作専科 山内 泰子

日頃から図工の学習に、御理解御協力いただきありがとうございます。

図工室には毎日、1年生から6年生の子供たちが図工の授業にやってきます。子供の発達段階や興味の度合いに個人差はありますが、「今度の図工何やるの?」「明日の図工、よろしくお願いします。」などと、図工を楽しみして声をかけてくれる子がいると嬉しくなります。

「豊かさは子供の中にある」と言われます。古来より人間は文字を書く前に絵を描き、形を作ってきました。先人の残した洞窟画や土偶などを見ると、その「ものを作り出したい」というパワーに共感し胸を打たれます。子供たちの内面には「表したい。作りたい。」というパワーがもともと備わっているはずですが、年齢を重ねると「うまく描けない。」「めんどくさい。」などというマイナス思考に押されてのびのびと表現できなくなったり、人が決めた固定概念の中で作品の良し悪しを決めつけてしまい、描くこと作ること自体を楽しめなくなったりしてしまいがちです。それも発達段階といえは発達段階なのですが…。

小学校の図工で何より大切なのは「作る楽しさや喜びを感じる」ことだと思います。とはいえ、学校の授業ですから、評価基準もあり、身に付けてほしい技能や、様々な制限もあり、好きなものを何でも好きなように作ってよいということではありません。ですが、子供の中にある豊かな感性を引き出すべく、小学校のうちにできるだけ多くの素材や用具に触れ、楽しんで取り組んでいけるようにと常々思いながら、授業計画や題材の準備、そして授業にあたっています。

不定期ですが「図工室から」で、図工の時間の活動の様子をお知らせしています。子供たちの豊かさを少しでもおうちの方々にも伝えられたらと思っています。